

国道 29 号線の東側にも環境のよい所が多くあり、再発見の期待が持たれる。

是非、同好諸氏の御協力を得て兵庫県における本種の分布及び生態を明らかにしたいものと思う。

本稿を草するにあたり、広畑政己氏には多くの御教示を頂いた。特に文献類の多くは同氏の御援助によるものである。ここに記すことにより感謝の意を表わしたい。

参 考 文 献

- 1) 山本広一・吉阪道雄(1965) 兵庫県産蝶類目録(4), 兵庫生物 5(1): 53
- 2) 丹波昆虫研究会(1957) 丹波の蝶, 丹波昆虫(3): 10
- 3) 加藤昌宏・武術晴雄(1981) 神戸の蝶, 神戸市立教育研究所
- 4) 唐土洋一(1981) 西播におけるムラサキツバメの新産地, てんとうむし(7): 19
- 5) 米村和繁(1966) 相生市におけるムラサキツバメの採集例, 昆虫と自然 1(8): 12
- 6) 渡辺康之(1978) ムラサキツバメの能勢妙見山での記録, Crude(17): 14

宝塚市清荒神のチョウ (追録 4)

加 藤 信 一 郎

今年(1984年)は記録破りの厳冬の影響もあってか、こゝ数年多く見かけるようになったナガサキアゲハは、春先から夏にかけても目撃・採集ともに少なく、又クロアゲハ、スジグロシロチョウなど例年普通に見られるチョウについても、全般に発生の遅れ、発生頭数の少なさが目についた。唯一の収獲は、8月末初めてナガサキアゲハの1♀を自宅の庭先で目撃できたくらいであった。

ところが9月に入って中旬から10月上旬にかけてヒョウモンが多発した。場所は清荒神参道脇東側の疎林々緑で、最も多かったのはミドリヒョウモンであり、10月には庭先にまでしばしば飛来するようになった。採品の破損状態・時期から見て、夏眠を終えて近くの低山地から移動してきたものと思われ、これまでもこの季節には単発的に採集・目撃してはいるが、これ程多数・種を一度に見ることはなかった。又同じ時期にこの疎林の林縁でアサギマダラが群発したのも特筆される。その他新たな知見も加えて下記の通り報告する。

1. ミドリヒョウモン *Argynnis paphia geisha* Hemming
♂多数, 3 ♀. 採集者, 筆者・谷友晴(高司中3年)・中井和彦(同)
2. メスグロヒョウモン *Damora sagana ilona* Fruhstorfer
3 ♂, 2 ♀. 採集者, 筆者・谷・中井. ♂は初記録である。
3. オオウラギンスジヒョウモン *Argyronome ruslana* Motschulsky
1 ♀, 6-10-1984. 採集者, 中井. 初記録である。
4. アサギマダラ *Parantica Sita nipponica* Moore
3 ♂, 6 ♀. 採集者, 谷・中井.

以上4種の採集時期・場所は先に述べた通りである。アサギマダラについては、かつて同所に住んでおられた猪股涼一氏から、以前には多かったことを聞いていたが、筆者はここ十数年目撃したことはなかった。

5. コチャパネセセリ *Thoressa varia* Murray
1 ♀ ab, 26-7-1984. 採集者, 谷.

夏型でやや小型, 地色は表裏とも黒みがかっており, 裏面の前後翅外縁に沿って黄褐色小紋が各室に明瞭に出現する異常型を呈する。初記録である。

6. サトキマダラヒカゲ *Neope geschkevischii* Ménétriès

自宅周辺では絶滅したと思っていたが(加藤, 1981), 荒神川西岸を少し入った雑木林(クロコノマチョウの採集地点-加藤, 1984)で毎年発生していることが分った。

以上の中, オオウラギンスジヒョウモンとコチャパネセセリは当地では初記録なので, 消荒神で確認されたチョウは46属, 58種となる。なお採品は採集者がそれぞれ所蔵している。

新神戸駅のミスジピロードスズメ

田 中 稔

新神戸駅附近は水銀燈が多くあり, すぐ後が布引の山がせまっているため大型蛾類が多い。筆者は新神戸駅の高架下でミスジピロードスズメ *Rhagastis trilineata* Matsumura を採集しているので報告する。

1 ♂, 神戸市新神戸駅, 1973年6月16日, 田中稔採集

本個体は前翅長が50 mm, 前翅裏面のR₅を境にして斑紋外縁は浅い波状で, ピロードスズメは深